Public Disclosure Authorized

QII原則の実践

カンボジア
強靭かつ持続可能で安定的な水の供給

Public Disclosure Authorized

QII.2 経済的効率性
QII.3 環境
QII.4 強靭性
QII.5 社会

カンボジアでは、国民の約3分の2が水道水を利用することができません。水の供給の拡大はカンボジア政府の課題となっており、同国政府は、アクセスの拡大を促すべく民間セクターとより体系的な連携を模索しています。2019年、世界銀行は関連セクターの強化に向け「給水衛生改善プロジェクト」を立ち上げました。「質の高いインフラ投資（QII）パートナーシップ」は、この一環で、民間セクターの参加促進に向けた水及び衛生インフラに投資する民間投資家の特定のための体系的な調査の実施と、水供給での自然を基盤とした解決策の活用という、2つの取組みを支援しました。

開発の課題

カンボジアでは水道水へのアクセスが限られており、2020年時点で水道水を利用できる人の割合は、人口のわずか32%にとどまっています。カンボジアでは、水道セクターへの民間の参加が進んでおり、工業科学技術革新省がこれを所掌しています。しかし、地域によっては、水の供給と衛生インフラサービスを拡大するために必要な投資が不足しており、大きな足かせとなっています。今後10年間で水へのユニバーサルアクセスを実現するために必要な投資額は、推定で年間9,200万ドルと言われています。これまでの投資状況を踏まえると、同セクターが抱える資金調達ギャップは莫大であると言わざるを得ません。加えて、社会的要因、環境的要因についても考慮する必要がありますが、カンボジアのインフラ開発において、ジェンダーに関するデータは十分であるとはいえません。さらに、洪水や干ばつといった極端な異常気象による脅威や脆弱性が、同国における水の安全保障の安定性と持続可能性に多くの課題を突きつけています。

2023年1月

WORLD BANK GROUP
JAPANGOV The Government of Japan
QUALITY INFRASTRUCTURE INVESTMENT PARTNERSHIP

プロジェクト概要

2019年3月、カンボジア政府の要請を受けた世界銀行は、期間5年・5,500万ドルの「給水衛生改善プロジェクト」を承認しました。このプロジェクトは、水道水へのアクセス及び衛生サービスの改善と、特定の市町村やコミュニティにおけるサービス事業体のパフォーマンスの強化を図るものです。なかでも、配水管網の拡張、小規模の水道水供給システムの開発、そして、水及び衛生政策の策定にかかる政府の能力開発への支援に注力しています。こうした支援により水道サービスへのアクセスが改善し、対象となる町やコミュニティで暮らす10万5,000人の住人に恩恵をもたらすことが期待されています。

QII原則の適用

QIIパートナーシップは、合計50万ドルのグラント（無償資金協力）を拠出するなど2つの活動を資金面から支援しました。2018年に承認された一つ目のグラントは、都市部や農村地帯の成長地域の配水管網、主配管、サブステーション、水処理施設などを中心とした、水道と衛生インフラへの民間の投資に関する調査を支援しました。本グラントでは、官民インフラ・ アドバイザリー・ファシリティ（PPIAF）の資金の提供を受けたそれまでの取組みを踏まえ、官民パートナーシップ（PPP）を実施する際の様々な選択肢を提供したほか、公開フォーラムやフォーカス・グループの協議を通じて必要なフィードバックを得るとともに、さらなる民間投資の対象となり得る水資源についての分析を行いました。

PPP案件の選択肢に関する評価は、水インフラにおけるPPP案件の設計、構築、資金調達、運営を行う上での基盤となりました。コミュニティにはプロジェクト案件に関する十分な情報が提供され、当該プロジェクトの実施と運営にコミュニティが参加するとともに、潜在的な対立や紛争の緩和にも貢献しました。PPP案件の成功は、同セクターにおける民間資本の参加を一層促進することになります。

1つ目のグラントの成功を踏まえ、2021年には、「自然を基盤とした解決策（Nature-based Solutions: NbS）」というアプローチの水供給投資への導入を推進する、2つ目のグラントが承認されました。このグラントでは、自然環境（水を貯めろ過する湿地帯）を従来のインフラを補完するエコシステムとして活用し、水資源の質を改善及び改善された水へのアクセス向上を目指しています。また、本グラントの活動には水インフラ投資に関する技術、環境、ジェンダー分析が含まれており、その成果はカンボジアにおける水供給開発に資するNbSアプローチの強化に貢献することが期待されています。本活動には、水供給、設計コンセプト、能力構築そして政策対話にグリーン・インフラを組み込むための経済分析も含まれています。

QIIが支援するNbSアプローチの調査は、気候リスクに強靭なインフラプロジェクトが設計され、カンボジアの水供給開発においてジェンダー面が考慮されることを促進するものです。同国政府はまた、水供給分野においてNbSの導入に前向きであり、グリーンインフラとグレーインフラの融合を推進する水供給政策の実現が期待されています。

QIIの支援を受けたこれら2件の取組みは、自然を基盤とした解決策（NbS）（QII.2）、グリーンインフラの促進（QII.3）、水供給の強靭性の強化（QII.4）、インフラ投資への社会的考慮事項の組み込み（QII.5）を通し、経済的効率性を促しています。こうした活動を通じ、また、国際協力機構（JICA）の豊富な知見も活用しつつ、カンボジアの上水道セクターの開発を支援するための助言が提供されています。

QIIパートナーシップは、2022年に新たなグラントを承認るなど、同国の水の安全保障の一層の強化にコミットしています。強靭な貯水システムを開発するためのプログラムと最新技術を応用したな水インフラを支援するため、技術、制度、規制といった観点からの分析に資金面での支援を行っています。これにより、生産性及び気候変動への強靭性の強化貢献することが期待されています。

期待される成果

- 水関連PPPへの政府の理解・支援が促進される。
- コミュニティに対しプロジェクトに関する適切な情報提供が行われることにより、新たな水供給サービス運営実施への住民参加がが促進される。
- ジェンダー平等への配慮が反映された上水道サービスが促進される。
- 自然を基盤とした解決策（NbS）の水供給プロジェクトの開発への活用に関する政府関係者の理解が深まる。

世界銀行グループと日本政府により設立された「質の高いインフラ投資（QII）パートナーシップ」は、G20のQII原則に沿った質の高いインフラ投資への理解を深め、途上国における質の高いインフラ投資を拡大することを目的としています。QIIパートナーシップは、世界銀行のインフラファイナンス・PPP・保証（IPG）グループが所管しています。

詳細はこちら：www.worldbank.org/QII